

参考資料 2. 事例にみる評価項目

1. 事務局スタッフが行う事業評価の事例

(市民による事業評価システム 99：市民による事業評価検討グループみえ)

三重県のNPO室の担当者や県内NPO関係者で構成された「市民による事業評価検討グループみえ」では、NPOによる事業が“やりっぱなし”、“自己満足に終わること”なく、次の事業に生かすことと、評価のプロセスを大切にすることを目的として、事業評価システムの検討、考案を行った。

この事業評価システムは、NPO法人等の設立目的や理念を測るものではなく、「自分たちの事業を自分たちで評価する」、「量ではなく、質を評価する」、「受益者の視点で評価する」等の観点から、「適切な事業管理の考え方が加われば、同じ努力で効率的に、より素晴らしい成果を残す」、「事業管理がわかりやすく行われていれば、外部の理解も得やすく、より多くの人々が活動に参加できるようになる」という問題意識に基づき作成されている。

この評価システムでは、NPO法人等が実施した事業について「予算、企画力」、「実施、運営力」、「市民参加度、公開性」、「市民社会への貢献度」の4つのカテゴリーに、それぞれ5項目(合計で20項目)を設定し、これを5段階で点数化する形式をとっている(20項目の合計得点は100点)。

また、点数化に当たっては、それぞれの項目別に採点の目安が示されているとともに、4つのカテゴリーでレーダーチャート化できるよう工夫がされている。

なお、この評価システムにおける評価者は、事業の企画、運営に携わった担当者としている。

図表 参考 2-1 市民による事業評価システム 99」の概要

評価の目的	事業をより有効に機能させるため
評価のやり方	内部評価
評価の視点	事業評価、事後評価、プロセス評価
評価者	事務局スタッフのうち事業の企画、運営に携わった担当者 (複数いる場合は全員が個別に行う)
評価の仕方	定量的手法(チェック項目方式)
評価の項目 (分類)	<ul style="list-style-type: none">▪ 予算、企画力 事業立案段階の取組みを評価▪ 実施、運営力 事業実施段階の取組みを評価▪ 市民参加度、公開性 事業立案段階～実施段階に至るまでの市民参加▪ 市民社会への貢献度 成果に対する評価
結果の示し方	4つのカテゴリーごとの合計得点、全体合計得点(5段階得点の計(100点満点))とカテゴリーごとのレーダーチャート

資料：「市民による事業評価システム 99」(市民による事業評価検討グループみえ)資料より作成

図表 参考2-2 「市民による事業評価システム99」の評価項目

分類	評価項目	設問項目	得点	
予算、企画力	1-1	事業の公共性	この事業は、市民活動団体が行う事業としてふさわしい公共性をそなえていますか。	5、4、 3、2、1
	1-2	事業の効果予測と事業計画書	この事業のもたらす効果を予想した上で、適切な事業計画書は作成されましたか。	5、4、 3、2、1
	1-3	費用対効果と事業規模	事業は、費用対効果に配慮した上で企画され、予算及び人的資源の面から見ても適正でしたか。	5、4、 3、2、1
	1-4	企画の際の情報収集	事業を企画する際に過去の事例(2-5の設問で作成された改善計画書)及び、内外の事例について情報収集を行った上で、事業計画立案が行われましたか。	5、4、 3、2、1
	1-5	企画内容の妥当性	事業の行われた場所、実施時期、方法は適切に企画され、対象となる人々の事情(ニーズ)に即したものでしたか。	5、4、 3、2、1
実施、運営力	2-1	業務実施時期と役割分担	事業実施過程で発生する業務について、事業全体の中での実行の時期や、担当者が明確にきめられていましたか。	5、4、 3、2、1
	2-2	情報の共有	事業実施過程で発生する業務の進捗状況に関する情報や、業務内で発生した問題点、有益な情報について、担当者間で譲歩共有が行われていましたか。	5、4、 3、2、1
	2-3	人材養成	この事業を遂行する上で求められる人材養成のための教育、訓練、研修機会が設けられましたか。	5、4、 3、2、1
	2-4	問題点の吸上げと業務改善	事業を行う際に発生した問題や苦情、意見を受け付ける体制があり、適切な対応及び業務改善が行われましたか。	5、4、 3、2、1
	2-5	事業実施後の振り返り	事業の行われた後、企画内容、事業内容、及びその結果に関する反省が行われ、改善計画書が作成されましたか。	5、4、 3、2、1
市民参加度、公開性	3-1	企画段階での公開性	事業計画の段階で、この企画に情報が公開され、企画に関して市民参画の体制はありましたか。	5、4、 3、2、1
	3-2	事業実施の際のパートナーシップ	事業実施の段階で、実施に関する情報が公開され、市民や、外部団体との協力体制はありましたか。	5、4、 3、2、1
	3-3	広報の方法	広報は事業の対象者に周知されるような形で適切に行われましたか。	5、4、 3、2、1
	3-4	広報のわかりやすさ	広報の内容は誰が読んでもわかりやすいものでしたか。	5、4、 3、2、1
	3-5	事業後の情報公開	事業終了後報告書及び決算書が作成され、一般市民が閲覧することができますか。	5、4、 3、2、1
市民社会への貢献度	4-1	企画意図の達成度	この事業は1-2の設問で予想された効果はありましたか。	5、4、 3、2、1
	4-2	市民の主体性	事業によって、市民が自らの役割を認識し、主体性をもって考え、行動できるようになりましたか。	5、4、 3、2、1
	4-3	ネットワークの構築	事業によって「市民相互」の関係は深まりましたか。	5、4、 3、2、1
	4-4	事業対象者の満足度	事業対象者はこの事業を通じて十分に満足を得ることができましたか。	5、4、 3、2、1
	4-5	事業後の情報公開	事業終了後報告書及び決算書が作成され、一般市民が閲覧することができますか。	5、4、 3、2、1

資料：「市民による事業評価システム99」(市民による事業評価検討グループみえ)

2. 理事、事務局等のスタッフが行う事業評価の事例

(IIHOEによる内部評価調査票のサンプル例：人と組織と地球のための国際研究所)

IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)では、より効果的な事業の改善、発展を目的とした事業評価のサンプル例をIIHOEが発刊するNPOの運営、マネジメントに関する専門誌「NPOマネジメント(N04)」で紹介している。

特に、この事業評価では、「次の機会に活かすことが、その目的であること」、「設問項目が詳細にこだわらないこと」、「多面的で多項目に尋ねるよりも本当に重要な項目を深く尋ねること」、「外部からの記入者がいることがバランスもよく理想だが、当初は内部から」という見解を示しつつ、個々のNPO法人の活動に応じた形で、その項目を設定する等を提唱している。

このサンプルでは、「企画、準備段階」、「運営段階」、「終了後」の3つをカテゴリーとする25項目を5段階で点数化する形式をとっている。

また、この25項目について評価者がその評価項目の重要性を位置づけるなど、設問に対する工夫を施している。

図表 参2-3 IIHOEの事業内部評価表サンプル例の概要

評価の目的	事業をより有効に機能させるため
評価のやり方	内部評価
評価の視点	事業評価、事後評価、プロセス評価
評価者	NPO法人の運営スタッフ等
評価の仕方	定量的手法(チェック項目方式)
評価の項目(分類)	<ul style="list-style-type: none">▪ 企画、準備段階 事業立案段階の取組みを評価▪ 運営段階 事業運営の取組みを評価▪ 終了後 事業の成果等について評価
結果の示し方	合計得点など

資料：「NPOマネジメント(N04)」(人と組織と地球のための国際研究所)より作成

図表 参考2-4 IHHOEの事業自己評価表サンプル

段階	ポイント	設問例	1. 重要度 最高3-最低1	2. 評価 最高5-最低1	1. × 2.
企画、準備段階	組織目的との適合性	この事業は、組織の目的を達成するために不可欠なものでしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	計画の実現性	この事業の計画は、現実的なものでしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	計画段階での意思決定の公正性	この事業の計画の際、意思決定は公正に行われましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	人員計画と手配、訓練	この事業の人員計画や、人員の手配、訓練は十分なものでしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	関係者とのネゴシエーション	この事業の準備段階で、外部の関係者との折衝は十分でしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	資金調達	この事業の準備段階で、資金調達の計画や見通しは適切でしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	施設、備品	この事業の準備段階で、施設や備品の手配は適切でしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	資料	この事業の準備段階で、作成された資料は適切でしたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
運営段階	計画の検証	この事業の準備段階で、計画の現実性は確認されましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	運営段階での意思決定の公正性	この事業の実施中の意思決定は、公正に行われましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	確動性	この事業では、性格で品質の高いサービスが提供できましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	スピード	この事業ではタイムリーかつ迅速にサービス提供できましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	創造性	この事業を通じて、新しい価値や制度の創出に貢献しましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
終了後	実態に基づくフィードバック(改善)	事業の開始後にも、実態に応じた計画の改善がなされましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	組織目的達成への貢献	この事業の成果として、組織の目的達成に貢献できましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	アカウンタビリティの向上	事業の成果として、組織の社会的信頼の向上に貢献しましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	受益者の満足	この事業の成果として、受益者は満足しましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	資金提供者の満足	この事業の成果に対して、資金提供者は満足しましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	専門能力の向上	この事業の成果として、組織の専門能力は向上しましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	一般の認知	この事業の成果として、一般の人々の認知は向上しましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	会員の評価	この事業の成果に対する、会員の評価は	3、2、1	5、4、3、2、1	
	業界内評価	この事業の成果に対する、同じ分野で活動する他団体の評価は	3、2、1	5、4、3、2、1	
	パートナーシップ	この事業の成果として、パートナーシップは促進されましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
	収支(資金調達)	この事業の成果として、収支は予算どおり達成できましたか	3、2、1	5、4、3、2、1	
情報	この事業の成果として、組織に有益な情報は得られましたか	3、2、1	5、4、3、2、1		

1. 重要性の3(最高)は10項目まで

資料:「NPOマネジメント(N04)」(人と組織と地球のための国際研究所)より作成

3. 他者の利用を前提とした組織評価の事例

(支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会によるサンプル例)

西日本の主要なインターメディアリーNPO(中間支援組織)で構成された「支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会(事務局:社会福祉法人 大阪ボランティア協会)」では、“支援者に信頼されるため”の評価基準、項目について、「事業評価」、「組織評価」、「財務評価」の3つから検討した。

特に「組織評価」では、「何をNPOの特性と位置づけ、重きを置くかは評価機関の価値観が問われる」、「NPO法人等の評価項目は多岐にわたり、評価項目としてあげる場合は、いかに絞り込むかがポイントなる」との見解を示した上で、「NPO法人等が実施する事業を支えるために必要な組織整備を測る指標」、また、支援者に信頼されるための「市民の参画や寄付者、ボランティアをつなぐに適した組織整備を測る指標」という2つの観点で提案されている。

また、ここでの組織評価は、他者の利用を前提に、事実確認が取りやすく、また、NPO法人等が基礎データを集めやすい項目を検討し、それを「組織整備領域(事業を支える体制であるかの軸)」、「情報公開領域(情報公開を行う体制であるかの軸)」、「NPO特性領域(NPOの独自性、特色が反映された体制であるかの軸)」、「寄付支援者領域(寄付支援者の信頼を得られる体制であるかの軸)」、「ボランティア支援領域(ボランティア支援者の信頼を得られる体制であるかの軸)」、「会員支援者領域(会員支援者の信頼を得られる体制であるかの軸)」の6つのカテゴリ、50項目を示し「YES、NO」で回答する形式をとっている。

なお、集計に当たっては、YESの回答を集計し指数化(全部がYESの場合は100)する形をとっている。

図表 参考2-5 支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会のサンプル例

評価の目的	NPOの底上げとNPOと支援者のマッチング
評価のやり方	内部評価(ただし、他者の利用を前提)
評価の視点	組織評価、事後評価、プロセス評価
評価者	NPO法人の運営スタッフ等(ただし、他者の利用を前提)
評価の仕方	定量的手法(チェック項目方式)
評価の項目(分類)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 組織整備領域 事業を支える体制であるかどうかを評価 ▪ 情報公開領域 情報公開を行う体制であるかどうかを評価 ▪ NPO特性領域 公益性、非営利性、独立性、運動性、先駆性等があるかどうかを評価 ▪ 寄付支援者領域 寄付者の状況、寄付者への対応など、寄付支援者の信頼が得られる体制であるかどうかを評価 ▪ ボランティア支援者領域 ボランティア支援者の状況、その対応等、ボランティア支援者の信頼を得られる体制であるかどうかを評価 ▪ 会員支援者領域 会員の状況、会員への対応など、会員支援者の信頼が得られる体制であるかどうかを評価
結果の示し方	YESの数を指数計算。6つの視点での集計と全体集計

資料:「支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究報告書」(支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会)より作成

図表 参考2-6 組織評価の項目例

領域	項目
組織整備領域	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定款はありますか 2. 専従スタッフ(有給、無給及び常勤、非常勤を問わず)はいますか 3. 有給の専従スタッフ(常勤、非常勤を問わず)はいますか 4. 常勤の有給専従スタッフはいますか 5. 事務所(自宅兼用等を含む)はありますか 6. 専用の事務所(自宅兼用等は除く)はありますか 7. 団体の目的、概要を記したパンフレット類はありますか 8. 経営(運営)の責任機関(理事会、運営委員会等)はありますか 9. 役員会(理事会、運営委員会等)は定期的開催されていますか 10. 役員(理事、運営委員等)は定期的改選されていますか 11. 今年度の予算書は作られていますか 12. 前年度の予算書は作られていますか 13. 会計検査(内部、外部を問わず)を受けていますか 14. 今年度の事業計画書は作られていますか 15. 前年度の事業計画書は作られていますか 16. 役員(理事、運営委員等)名簿はありますか 17. 当座貯金、普通貯金等の金額は毎月、管理されていますか 18. 月々の予算と決算の比較は実施されていますか 19. 団体専用の電話がありますか 20. 財務諸表がありますか
情報公開領域	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の事業計画書の公開が可能ですか 2. 前年度の事業計画書の公開が可能ですか 3. 今年度の予算表の公開が可能ですか 4. 前年度の予算表の公開が可能ですか 5. 定款の公開が可能ですか 6. 役員名簿(理事、運営委員等)の公開が可能ですか 7. 定期的に機関誌を発行している 8. 定期的に総会を開催している
NPO特性領域	<ol style="list-style-type: none"> 1. 団体の目的には公益性がありますか 2. 特定の個人のみを活動対象としていませんか 3. 利益を配分していませんか 4. 役員(理事、運営委員等)の3分の2以上は無給ですか
寄付支援者領域	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寄付支援者のリストはありますか 2. 寄付支援者へ決算書、事業報告書等を送付していますか 3. 寄付支援者を募るためのパンフレット類はありますか 4. 寄付支援者担当部門がありますか 5. 寄付支援者担当者がいますか
ボランティア支援者領域	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアのリストはありますか 2. ボランティアへ決算書、事業報告書等を送付していますか 3. ボランティアを募るためのパンフレット類はありますか 4. ボランティア担当部門がありますか 5. ボランティア担当者がいますか 6. ボランティア希望者にオリエンテーションを行っている 7. オリエンテーション用の資料がありますか 8. 活動の報告や反省会等の機会がありますか
会員支援者領域	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会員のリストはありますか 2. 会員へ決算書、事業報告書等を送付していますか 3. 会員を募るためのパンフレット類はありますか 4. 会員担当部門がありますか 5. 会員が事業、財務等について報告を受けたり、意見を述べる機会(総会等)がありますか

資料:「支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究報告書」(支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会)

4. ボランティアスタッフによる組織評価の事例

IIHOE では、組織評価のサンプル例も紹介しており、特に、組織評価では理事会や事務局長の役割を重視し、「理事会のための自己評価」、「理事による事務局長評価」の具体的手法やモデル例を紹介している。

また、それに加え、ボランティアもNPO法人等の運営の貴重なパートナーと捉え、ボランティアのよる評価を活かす方法も紹介している(NPOマネジメントNo14)。

これは現場で日常業務にあたるスタッフの意欲(モラル)を、個人としても、組織としても維持し高めるためには、ニーズに対する自分の役割や成果を直接確かめることが重要とし、スタッフの不満などを提案や改善に結びつけるために、アンケートとフィードバック研修を定期的実施することを提案している。

このモデルでは、NPO法人等の活動目的に対する理解度や意欲、参加に対する満足度などの10項目を3段階でスタッフに回答してもらい形式をとっているとともに、その原因や、自身が改善すべきこと、改善するためにNPO法人等がすべきことを定性的に記述してもらい形をとっている。

図表 参考2-7 IIHOE の組織評価表サンプル(ボランティア、セルフチェック)概要

評価の目的	ボランティアの意識を組織運営に活かす
評価のやり方	内部評価
評価の視点	組織評価、事後評価、プロセス評価
評価者	活動や事業に参加するボランティア
評価の仕方	定量的手法(チェック項目方式)
評価の項目(分類)	<ul style="list-style-type: none">▪ 理解度 ボランティアがNPO法人の活動目的、社会的な役割等を理解しているかを測る▪ 意欲 ボランティアの技能取得意欲、段階を測る▪ 満足度 ボランティアの満足度を測る
結果の示し方	合計得点、平均など

資料：「NPOマネジメント(N014)」(人と組織と地球のための国際研究所)より作成

図表 参考 2-8 IHOE の組織評価表サンプル(ボランティア、セルフチェック)概要

ポイント	設問例	選択肢例
目的理解	あなたは当団体の理念と、今年度の目標について、理解していますか？	1. 理解していない 2. 業務に必要なだけは知っている 3. 人に説明できるぐらい理解している
役割理解	あなたは当団体の理念と、今年度の目標について、理解していますか？	1. 理解していない 2. 業務に必要なだけは知っている 3. 人に説明できるぐらい理解している
顧客理解(1)	あなたは当団体の現在の利用者として、将来は利用者になるであろう人々について、理解していますか？	1. 理解していない 2. 業務に必要なだけは知っている 3. 人に説明できるぐらい理解している
顧客理解(2)	あなたは当団体の現在の協力者として、将来は協力者になるであろう人々について、理解していますか？	1. 理解していない 2. 業務に必要なだけは知っている 3. 人に説明できるぐらい理解している
関連法令理解	あなたは当団体での活動に関連する法令や制度について、理解していますか？	1. 理解していない 2. 業務に必要なだけは知っている 3. 人に説明できるぐらい理解している
技能取得(※)	あなたは当団体での活動に関連する A と B の技能について、習得していますか？	1. 習得していない 2. 業務に必要なだけは習得している 3. 人に教えられるぐらい習得している
参画	あなたは当団体での活動の中で、主体的、積極的に役割や責任を果たしていますか？	1. 果たしていない 2. 業務に必要なだけは果たしている 3. リーダーを務めている
時間	あなたは当団体での活動に費やす時間の量について、どう感じていますか？	1. これ以上は協力したくない 2. これ以上は難しい 3. もっと協力できる
受益者の満足	あなたの当団体での活動によって、受益者、利用者はどれくらい満足していると思いますか？	1. 全く満足していない 2. ちょうど満足している 3. 高く満足している
ボランティア本人の目標達成	あなたは当団体でのボランティア活動について、満足していますか？	1. 全く満足していない 2. ちょうど満足している 3. 高く満足している

(※注：この項目については、個々の技能について尋ねること)

資料：「NPOマネジメント(N014)」(人と組織と地球のための国際研究)

5. 他者の利用を前提とした財務評価の事例

(支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会の財務評価の例)

「支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会」での「財務評価」では、“支援者に信頼されるため”に必要なものとして、「支援を受けたことによる事業の成果や価値をいかに透明性をもって寄付者や市民に明らかにすることは重要である」という認識に立ち、その項目の提示を行っている。

その一方で、「支援者層は、一般マーケットでの投資行動とは異なり、例えば、情報開示によって資金繰りが大変厳しいことが明らかになっても、多様な価値観をもった市民は、そのNPOを支える行動が十分にあり得る」とし、より様々な角度から、そのNPO等の活動内容を浮き彫りにすることが必要としている。

ここでの財務評価として示した指標等の妥当性の検証や分析にあたっての配点基準や関数については、具体化しておらず、今後の課題とした上で、「活動タイプ把握(自身の活動状況の把握と確認)」、「財務健全性(財務の健全性、透明性を示す)」、「社会性(活動の社会性を示す)」、「経営安定性(経営の安定性、安全性を示す)」の4つの視点を挙げ、それを表す50の指標を示している。

集計に当たっては、指標に求められたデータを分析し、採点化する。

図表 参考2-9 支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会のサンプル例

評価の目的	NPOの底上げとNPOと支援者のマッチング
評価のやり方	内部評価(ただし、他者の利用を前提)
評価の視点	財務評価、事後評価、結果評価
評価者	NPO法人の運営スタッフ等(ただし、他者の利用を前提)
評価の仕方	定量的手法(業績測定方式)
評価の項目(分類)	<ul style="list-style-type: none"> 活動タイプ分類 財務内容からNPO法人の活動タイプを分類 財務健全性 財務体制の安全性、事業の健全性を評価 社会性 市民参加、社会価値創造、共感性、情報公開度を評価 経営安定性 安全性、生産性、成長性を評価
結果の示し方	指標で求められた数値を得点化。4つの視点ごとの得点化に加え、4つの視点を構成する要素ごとにも得点化

資料:「支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究報告書」(支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会)より作成

図表 参考2-10 支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会

分類	項目	指標式	
財務状況の概括	収入	収入構造の変遷	過去3年間の総収入額と構成内訳の変化を把握 「寄付金、会費」「補助金、助成金(対価性あり)」「助成金(対価性なし)」「本来事業」「非関連事業」「金融収益」「雑収入」「その他」
		事業収入比率	事業収入(本来事業、非関連事業)÷総収入×100
		会費、寄付金収入比率	会費、寄付金÷総収入×100
		補助金、助成金収入比率	補助金、助成金÷総収入×100
	支出	支出構造の変遷	過去3年間の総支出額と構成内訳の変化を把握 本来事業、非本来事業、人件費、管理費、設備投資
事業タイプの分類	事業報告書等に記載された活動内容から把握された事業タイプと、収入からみた事業タイプの比較を行う	収入から見た事業タイプ 「事業型NPO」「補助、助成主体型NPO」「クラブ型NPO(共益型)」「共感型NPO」「複合型NPO」	
財務の健全性	財務体制の健全指標	会計担当の有無	会計担当の有無と専従、非専従
		担当者の習熟度	簿記資格の有無
		会計ソフトの有無	会計ソフト、会計処理の税理士等への委託の有無
		会計処理の方法	単式簿記、複式簿記
		資金処理の相互牽制	管理責任者の有無や管理者の人数
		監査体制の強弱	監査体制(外部監査が望ましい)
		会員の決算承認	決算、予算計画の承認への会員参画(総会以外の機会があることが望ましい)
		財務計画の立案	予算計画の立案や財務見通しの体制づくり
		財務情報の公開	財務諸表は会員、支援者に公開されているか
寄付者への伝達	寄付者に対する財務諸表などの伝達有無		

財務の健全性	事業の健全指標	事業費支出割合及び事業費の増加率	事業支出÷総支出×100(直近3年間を比較)
		事業ごとの事業費集計の有無	プロジェクト(プログラム)ごとの事業費集計
		非関連事業への支出割合	非事業費に係る支出合計÷総支出(または総事業費)×100
		総支出に占める人件費割合	人件費総支出÷総支出×100(3年程度の推移も比較)並びに今年度の人件費支出÷前年度人件費支出×100
		役員等への人件費支出の開示	「理事、役員」「専従スタッフ(兼任の理事、役員はこちらに含む)」「嘱託、パート等」ごとの各人件費の開示
		常勤専従スタッフへの財務依存度	常勤の専従スタッフ一人あたりの年間人件費が開示されているか
		財務の内部依存度	関係者内部からの借入額及びその返済状況の開示
		人件費の事業費と管理費区分	
		非関連収入等への依存度	非関連事業等÷総収入×100
社会性	市民参加度		パブリックサポートメント
	社会的価値の創造力	社会的価値の生産性	粗付加価値額÷会費、寄付金×100 (粗付加価値額=人件費+賃借料+租税公課+支払特許料+減価償却実施額+営業利益+社会的価値)
		社会サービス創造性	(本来事業収入+事業への行政補助金-本来事業に係る人件費支払額(有償ボランティアへの支払も含む)+ボランティア労働力)÷会費、寄付金×100 (ボランティア労働力=年間ボランティア時間×最低賃金)
	その他の共感度	新規会員増加率	期末会員数÷期首会員数×100
		会員定着率	期末残存会員数÷期首会員数×100
		寄付金収入伸び率	(当年度寄付金収入-前年度寄付金収入)÷前年度寄付金収入×100
		助成金伸び率	(当年度助成金収入-前年度助成金収入)÷前年度助成金収入×100
		ボランティア定着率	期末残存ボランティア数÷期首ボランティア数×100
		市民参加イベント集客率	イベント参加者総数÷イベントの延べ回数
		新規寄付者増加率	期末寄付者数割る期首寄付者数×100
情報公開		事業の健全性、財務体制の健全性などの指標が情報公開の姿勢につながる	
経営安定性	安全性指標	流動比率	流動資産合計÷流動負債合計×100
		正味財産比率	正味財産÷資産合計×100
		負債比率	負債合計÷正味財産合計
		経常収支率	収入÷支出×100
		預金、預金準備率	現金、預金残高÷(支出÷12)×100
		キャッシュフロー	(今年度正味財産額-前年度正味財産額)+減価償却実施額-役員賞与1年間の資金増加額
		会費未納率	会費未収額÷予定会費納入総額×100
		現金準備状況チェック	月次入金額と支出の差の標準偏差
	生産性指標	付加価値生産性	粗付加価値額÷会費、寄付金×100 (粗付加価値額=人件費+賃借料+租税公課+支払特許料+減価償却実施額+営業利益+社会的価値)
		会費付加価値生産性	粗付加価値額÷会費納入会員数×100
	成長性指標	総収入伸び率	(当年度収入-前年度収入)÷前年度収入×100
		会費収入伸び率	(当年度会費収入-前年度会費収入)÷前年度会費収入×100
		経常収入伸び率	(当年度経常収入-前年度経常収入)÷前年度経常収入×100
		(本年度付加価値生産性-前年度付加価値生産性)÷前年度付加価値生産性×100	

資料：「支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究報告書」

(支援者とNPOをつなぐためのNPO評価に関する調査、研究会)